

ベトナム子供基金通信

NO.22 2002年 9月 25日

ベトナム子供基金

〒113-8642

東京都文京区本駒込2-12-13

アジア文化会館内

TEL:03-3946-4121 (代)

FAX:03-3946-7599

ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH

c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU

43D/46 Ho Van Hue, Phu Nhuan

Ho Chi Minh, Viet Nam

TEL:84-8-8477359 FAX:84-8-8477527

URL:<http://homepage3.nifty.com/vcf/> 電子メール:kodomo.kikin@nifty.com

4月に開催した里子訪問ツアーに参加された、中野洋一、飯田博康、光武まち子、藤田政和、唐沢文子の各氏からツアーの感想をご寄稿いただきました。(順不同)

教育を受ける機会の重要性

中野 洋一

ベトナム子供基金の企画の里子訪問に今回初めて参加しました。残念ながら、私の里子はホーチミン市からかなり遠方にいるので会うことはできませんでしたが、今回のツアーに参加して多くの貴重な体験をすることができ、とても有意義であったと思います。

ベトナム訪問は実は今回で3回目ですが、今回の訪問ではベトナムの教育・福祉事情、デルタ地帯の農村事情などがわかり、本当にいい勉強になりました。参考ながら1回目は1997年に市民団体「アジアフォーラム」の企画で第二次世界大戦の日本軍占領下における戦争被害調査で、2回目は2000年に九州国際大学の環境研究調査で訪問しました。

私の専門は国際経済で、特に世界経済における南北問題、途上国の貧困問題と軍事費、武器貿易、累積債務の関連を研究しています。国連開発計画の報告書『人間開発報告1999』

によれば、途上国の今日の貧困状況について次のような指摘があります。

「食糧と栄養については、約8億4000万人の人々が栄養失調の状態にある。教育については、8億5000万人あまりの成人が読み書きできないばかりか、初等・中等教育レベルで2億6000万人以上の子どもたちが就学していない。女性については、約3億4000万人もの女性が40歳まで生存できない。子どもについては、約1億6000万人もの子どもたちが栄養失調の状態にあり、2億5000万人以上の子どもたちが児童労働に従事している。保健については、1990-97年にHIV/エイズ感染者数は1500万人未満から3300万人以上へと2倍以上増えた。約15億人が60歳になるまで生存できない。8億8000万人以上の人々が保健医療サービスを利用できず、26億人が基本的な衛生設備を利用できない」

このような報告書を読んでも、先進国に住んでいる人々には途上国の人々のその貧困状況はなかなか実感できないものです。今回の訪問では、ホーチミン市郊外のデルタ地

帯の農村で支援している学校建設現場が一番大きな収穫でした。村人の生活の話のなかで、子どもたちの教育への思いがよく理解でき、同時に「安全な飲み水」の確保の重要性がいかに切実なものかを初めて実感できました。

私たちの里子支援活動は、実に小さな活動です。しかし、それによって教育を受ける機会を得ることができた子どもが一人増えた事実もまた自分自身の目で確認できました。

(なかの よういち)



厚意の結晶に子どもの笑顔

飯田 博康

ドンズー日本語学校の屋上では、サイゴン川からの涼しい風が私たちを大歓迎してくれました。屋上には青葉奨学会スタッフやボランティアの方々や奨学生のみなさんで満員。奨学生がテーブルに運んでくれるベトナム料理を口にしながら、奨学生やスタッフの方々と楽しく過ごすことができました。思いがけない歓迎パーティーに、感謝の気持ちで胸が熱くなるものを感じました。

翌日はロントゥアン村の学校建設の視察。トゥートゥア郡人民委員会の裏の運河から、小型のモーターボートに乗り込みました。運河の兩岸には地域の日常生活の様子を見ることができ、飽きない船旅でした。約1時間後、離れ小島のロントゥアン村に着き、船から降りてびっくり。昨年来たときは土盛りが完了したばかりの何も無い荒地でした。そこに想像以上の立派な学校が建設されているではありませんか。日本人の厚意の結晶がこのよう立派な学校を建てたことに感激。

授業が終わった小学生が私たちの周りに集まり、キラキラ輝く大きな目で笑顔いっぱい話し掛けてくる。完成する中学校を待ち望んでいる喜びに思えました。片道10キロメー

トルを歩いて通学しなければならない子どもたちには、きっと大きなプレゼントになるに違いありません。あらためてホウエ先生と青葉奨学会の皆様にお礼申し上げます。

(いいだ ひろやす)



次は地方の子どもの里親に

光武 まち子

5年ぶりに里子と会い、ずいぶん大人になったと感じ嬉しく思っています。自分の考えをしっかりと持った子どもの成長、驚きと、援助してきて良かったとつくづく思っています。

里子の家を訪問して感じたことは、以前より生活等が良くなっているように見うけられました。しかし、ちょっと納得できないこともありました。里子の姉2人と母親と兄嫁4人が家でブラブラしているとのこと。仕事がないのか、あってもする気がないのか、お国柄なのか、私には理解できませんでした。

私の里子は今年で卒業します。でもベトナムの地方の子どもたちの多くは学校に行っていないとのこと(行けない?)。私はいま、地方の子どもにできるだけ援助してあげることが必要なのではと感じています。ロンアン省に建設中の学校を見に行きました。一個所を見ただけですが、きっとロンアン省と同じような所が多くあるのだと思います。

次は地方の子どもの里親になりたいと思っています。子どもと会うことがむずかしくなるでしょうが、子どもと会うだけの援助ではないと思っています。里親の皆さんにはぜひ地方の子どもたちにも目をむけてあげてほしいと思っています。もちろん、私と同じ考えの方が多くはと思いますが、ベトナム青葉奨学会の方できめることだから、私たち里親には選ぶことができないもどかしさもあります。そこで事務局の方々には大変でしょうが、地

方の子どもにも里親を付けてあげてくださるようお願いをして今回ベトナムに行った感想にしたいと思います。

(みつたけ まちこ)

◇ ◇ ◇

現地で得たきっかけ

藤田 政和

ベトナムで最初に思ったのは、すごく暑いことです。あとで暑くてちょっとダウンしました。あとはどこに行っても人が多かったことです。バイクもいっぱい走っていて最初は怖かったけれど、最後の日までには慣れました。いろいろな物が安かったのはとても嬉しかったです。日本円をベトナムのお金にしたときも、たくさんの紙幣を手にてきて、ちょっとお金持ちになったような気分。一番楽しかったのは、ロンアン省の避難所兼学校を見学するときに乗った、すごい速さのボートです。猛烈なスピードで、暑かったベトナムがとても涼しくなりました。

全体的に楽しかったので、近いうちにまたベトナムに行きたいです。今度行ったときは、自分にも小学校3年生の里子ができたので、自分の里子にも会いに行きたいです。ベトナムのいろいろな所を歩いていると、いろいろな所で子どもに出会いました。そのときに、自分は学校に行きたくないけれど、ベトナムでは学校に行きたくても行けない子どもがたくさんいるんだなと思ったのが、里親になったきっかけです。

(ふじた まさかず・中学3年生)

◇ ◇ ◇

タオちゃんのこと

唐沢 文子

主人がタオちゃんの里親になったのは7年前。毎年近況を知らせる便りが届いていまし

たが、返事を出したこともありませんでした。

12年生(高校3年生)の夏、体調が悪いとの一文が目にとまり、筆まめでない主人に代わり、私が励ましの手紙を出した初めてのエアメール。「日本にもう一人の母親がいたなんて……」と喜びの返信から、タオちゃんと私の文通が始まったのです。

昨年10月、大学合格! 「おめでとう」とともに、互いに会いたい気持ちのまま支援が終わり、その後、里子訪問ツアーが企画され絶好のチャンス。この機会を無駄にできないと、思いきって参加することにしました。見知らぬ土地の文化の違い、不安と期待。いろんな気持ちが交錯するうち、空港に着き降り立つと、暑さと人の熱気でムンムン。少々怖さも感じた。大丈夫。添乗員の鈴木さんもいるし、ベトナムに詳しい仲間もいるからと自分自身を励ましたベトナムへの第一歩。

ホウエ先生と里子を囲む楽しい夕食会(残念ながらタオちゃんは勉強で来れないと連絡あり)や市内観光などスケジュールをこなして、いよいよ家庭訪問の日。心ウキウキ、ドキドキ、まるで恋人にでも会うかのように。御家族の感謝の気持ちが伝わり、心配もよそに話つきぬ訪問ができて、その夕方、ホテルへ訪ねて来てくれて一緒に夕食。

帰国の時は、真夜中にもかかわらずお父さんと一緒に空港まで見送りに来てくれて、短いひとときでしたが、充実した旅でした。支援を反対した私でしたが、主人のやってきたことが無駄ではなかったと実感する旅行でした。私はいま、食事会や納涼祭などでアオザイを着て、日本語の上手なベトナム人を演じています。いつか、タオちゃんとベトナムの街をアオザイを着て歩きたい、そんな日がまた来る日を夢に、主人の新しいロンアン省の里子の支援、心の奥で応援しましょう。

(からさわ ふみこ)

夏

校庭の紅い火焰樹の木が輝くばかりの芽を出し始めた

色褪せた葉が風に乗って落ちて行く
 サイン帳が交換され、名残惜しさに包まれながら学校が終わる

また夏がやってきた
 喜びに満ちた笑い声、希望で光り輝いた瞳もあれば
 静かなため息をつき、押さえ切れない涙を流すものもいる

“先生、友達
 一本、ノート…”

笑い声に混ざって、遠くから響く歌声も聞こえる別
 れのとき 親しみや、言葉では表わせないいろんな感情の
 つまった思い出はいつまでも心に刻まれ夏が来る
 度に思い出す

かばんを抱え学校に通った天真爛漫な日々
 また夏が来て、秋が来るのを待つ、社会に足を踏み
 出すまでの時間 激しく過酷な争いに満ちた生活は学
 生達から無邪気さを引き離してしまう
 年月が流れても、夏が来たという言葉は、心に穏や
 かで熱い感動を呼び起こさせる

・2002年1月31日 2002年度始めの奨学金授与式が行われました。青葉奨学会は式をダムセン公園で催し、400人以上の学生達が集まりました。

・2002年5月6日 青葉奨学会での2年間の勤務の後、高橋佳代子さんが日本に戻られました。高橋さんは日本で、さらに勉強を続けられます。青葉奨学会は、高橋さんの積極的で熱意溢れる貢献に心から感謝いたします。

・高橋さんの後任は土肥明代さんです。土肥さんは大学院を卒業しており、ベトナム語の知識があります。したがって、学生達の里親さんへの手紙を主に訳してくれています。

・La Cam Uyen Chi さん (KO-039) が里親の湊 記代江さんのご招待により、1週間日本を訪問します。2002年8月19日、Chiさんは里親さんとの対面、日本での観光の道のりに出発します。湊さん ありがとうございます。そしてChiさん おめでとう。

・ロンアン省トゥートゥア郡ロントゥアン村に、青葉奨学会の里親の皆様からの寄付による学校建設が進行中です。:4教室、校長室、職員室、そしてその他必要な設備も含めて、約4億6千万ドンです。

・2002年6月1日 岐阜サンリバーロータリークラブからピンチャン郡のレーミンズアンボランティア教室にプレゼントが贈られました。ペン、ノート、教科書など総額122万2千ドンでした。

・2002年5月25日 全国の奨学会間の連携を親密にするための団結精神のもと、タイニン省奨学会がドンズー奨学会を訪れました。Truong Thi Trang 副主席、Le Ngoc An 委員と共に青葉奨学生である10人の学生を、ドンズー奨学会は盛大に歓迎しました。動物園を訪れ、市内観光をし、そしてお別れの前に昼食を共にしました。2奨学会は、お互いに記念品の交換を行いました。

青葉ファミリーの学習状況から

1. Le Trong Thuy Dan さん (KO-033、里親イマイユキエ様)
 一第8回南部4月30日オリムピックの国語部門金賞
2. Vu Thanh Quynh さん (KO-034、里親モリモトタカコ様)
 一市主催試験11年生国語部門で銀賞
3. Pham Thi My Trinh さん5年生 (KO-671、里親ヒラノヨシコ様)
 一区の非常に優秀な学生
4. Trinh Quang Phuong Thao さん (NK-182、里親Doan Canh Duc 様)
 一市の非常に優秀な学生歴史部門第三位
5. Nguyen Khanh Tin さん (HO-072、里親タチミツエ様)
 一第6回レークイ ドン非常に優秀な学生
 一市主催の試験化学部門第一位
6. Ngo Minh Thanh さん (HO-149、里親 ハマタカコ様)
 一市主催の試験地理部門第一位
 一市主催の試験生物部門第二位
7. Tran Van Quang さん (HO-310、里親ヨコタニキクコ様)
 一市主催の試験数学部門第三位
8. Tran Thi Kim Tuyen さん (HO-312、里親シンキタズコ様)
 一市主催の試験生物部門第三位

心の窓

1. 2002年度初めの、ダムセン公園で行われた奨学金授与式において、Nguyen Duc Hoe 校長先生は次のように述べられました。:

ご来賓のみなさま、そして青葉奨学生のみなさん

ベトナムには「果物を食べる時にはそれを植えた人のことを思い出し感謝しなさい」「水を飲むときにはその水源を思い出し感謝しなさい」という言葉があります。本日奨学生をはじめ父兄のかたがたもいらしていますので、この機会にもう一度私たちは里親のかたがたが青葉奨学金を支援してくださいということを心に刻んでおきたいと思います。里親になるかたがたは日本人か、かつて日本に留学していたベトナム人です。そのひとたちは青葉奨学会やドンズー日本語学校とは旧知の仲です。里親のかたがたはベトナムに大変関心を持ち、そしてベトナムが美しく豊かになるように、そしてベトナムの国民が暖かな幸せにつつまれるよう願っています。また先に述べたようなことを将来実現できるように里親のかたがたは奨学金という支援で家庭は経済的には貧しいけれども素直で向学心豊かな学生になるよう励ます

QUY HOC BONG LA XANH
43D/46 HOÀ VAN HUE – Q. PHU NHUAN
TP. HCM – VIET NAM
ĐT : 8.477.359 – Fax : 84.8.8477527
Email : hbx@hcm.vnn.vn

(編集部注：青葉新聞はベトナム青葉奨学会発行の、里子向けのベトナム語の新聞です)

ことができるようにささやかな貢献をしたいとも願っています。そして奨学生のみなさんが将来ベトナムの国が発展していけるように、世界の平和が確かなものになるようにベトナムと日本の二つの民族の友好の架け橋になることができるよう知恵のある豊かな才能をもつ人間になってほしいとも願っています。奨学生の父兄をはじめ、青葉奨学会実行委員会では里親のかたがたの願いを真摯に受け止めそしてその真心に誠心誠意感謝いたします。私共は先に述べたことが実現できるよう努力し邁進していきます。

2. 同式典で、La Cam Uyen Chi さんは大変心のこもった言葉を発表しました。:

最後に私は里親様、そして青葉奨学会の先生方へお話ししたいことがあります。きっとこのことは私だけでなく、ここにいる皆さんも同じことを考えているでしょう。それは里親のみなさまへそして青葉奨学会の先生方に対して「Xin Cam (ありがとうございます)」という気持ちです。里親のみなさま、そして青葉奨学会の先生方の温かい真心に対して、そしてみなさまが私たちにその真心をもたらしてくださったことに対して、心から御礼を申し上げます。生きていくことは戦うことです。幸福は目的に向かって進んでいく過程であり、決してその目的を果たすことではありません。私たち1人1人にはそれぞれの進む道があります。そしてその道にはいつも両親や里親様そして先生方の希望と期待そして功労があることを胸に刻みながら、私たちは一生懸命努力し邁進していくことを約束します。

3. Tran Hang Ngoc Chau さん (NK-029) は里親様への感謝の手紙に、青葉奨学会の開催したダムセン公園に参加したことを書いていました。

…夏の半ば、その時間は私に、遠い一月のある一日の思い出をよみがえらせます

…青葉奨学会の催しでダムセン公園に行った日の印象は、今も色褪せることなくはっきりと私の中に刻み付けられています。それはあまりにも大きな幸せであり、私のような貧しい家庭の子どもは夢にも見たことがありませんでした。自分… た、幼い頃に描いた神秘的で美しい人生を取り戻したように感じました。その中には、アンデルセンの物語— “昔の魂を探しに行く人” —に出きた慈愛深い天女様や王女様が存在するようでした…

4. 青葉奨学会での年月は、いつも美しい思い出となっています。その想いを Phan Quoc Dai さん (KO-065) が歌詞にし、曲もつけてくれました。

: 友よ

友よ、たとえ離れても、心の中でいつも想っている。どこへ行こうと、どの方向に行こうと。われわれの心に光を灯そう。

共に喜びの歌を歌おう、憂い煩いを忘れるために

離れても、確かに想いあっている。憂うことなく楽しむうではないか。なぜなら、いつだって青葉があるから…

青葉奨学会の奨学生でホーチミン市の高校生、ラ・カム・ウィン・チーさん（写真）は8月20日、ベトナム子供基金の里親、湊記代江さんの招きで来日、7泊8日の日程で日本を体験しました。滞在中、毎日新聞東京本社を見学、「毎日中学生新聞」の取材を受けました。

— 滞在日程 —

- 8月19日：ホーチミン市発23:45 JL750
- 8月20日：成田空港着07:20、日程打ち合わせ、休憩。その後、里親の友人宅で着物体験
- 8月21日：伊豆への1泊2日旅行
- 8月22日：曇天のため富士山は見えず
- 8月23日：午前は茶道と華道を体験。午後、毎日新聞東京本社を見学、子供基金を表敬訪問
- 8月24日：関東国際高校の生徒との交流で原宿、上野動物園、東京国立博物館へ
- 8月25日：東京ディズニーランドへ
- 8月26日：午前中に土産を買い、14:15新宿から成田へ向かう。成田空港発18:00 JL759

事務局注：里親の皆様が里子を日本に招待する場合、いくつかの条件があります。1. 里子を受け入れる部屋があること、2. 里親が片言でも英語またはベトナム語を話せること、

3. ベトナム語通訳が確保できる状況にあること、4. 里子が日本に興味があることなどです。なお今回ボランティアで通訳していただいたダン・ティ・キエウさんとグエン・ティ・キム・チーさんにこの場を借りてお礼申し上げます。



ベトナムの高校生ウィン・チーさん毎中編集部を訪ね
新聞記者になりたい！

日本の若者たちと交流することを目的として、日本を訪れていたベトナムの高校1年生、ラ・カム・ウィン・チーさん（16）が23日、毎日中学生新聞編集部（東京都千代田区）を訪問した。ウィン・チーさんは、就学困難なベトナムの子供たちを支援しているNGO・ベトナム子供基金（近藤昇代表）の会員で現在19人の子供たちの里親となっている湊記代江さん（64）に招かれて来日、4日間滞在中、26日に帰国した。

ベトナム子供基金は、1995年の設立以来、「ベトナム青葉奨学会」（本部・ホーチミン市、グエン・ドク・ホウエ代表）を通じて、小・中・高校生ら471人に援助を行ってきた。ウィン・チーさんもその一人で、同年から同基金の奨学生となっている。

ウィン・チーさんに日本の印象を尋ねると、「緑が多くて空気がきれい」という答えが返ってきた。1泊2日の日程で赴いた伊豆旅行が印象深かったという。「初めての温泉が楽しくて、2回も入ってしまいました。富士山が見られなかったのは残念でしたが、いい体験ができました」

街で見かけた同世代の若者については、「高校生でもお化粧をしていて大人っぽかった。ベトナムの学生たちはもっと素朴な感じなので驚きました」と率直に話した。

世界の文学とベトナムの詩をこよなく愛し、「国語が大好き」と語るウィン・チーさんの夢は、新聞記者になること。「社説が書ける記者になるため」に、毎日12時間以上も勉強しているという。今、最も関心のある問題について尋ねると、ウィン・チーさんは真剣な表情で答えた。

「ベトナムには貧困をはじめとして、さまざまな社会問題がありますが、特に関心があるのは医療。満足に治療を受けられない子供たちが多くいます。病気にかかっても、薬がなかったり入院費がなかったり。重い病になってしまうことがとても気がかりです」

「ドイモイ（刷新）」と呼ばれる開放政策によって市場経済化が進むベトナムだが、貧しさのために学校教育を受けられない子供たちも多い。

同基金事務局長の南康雄さんは「地方では貧困のために学校に通えない子供が多くなっています。皆さんにベトナムの現状を知っていただき、ご協力願えれば」と同基金への参加を呼びかけている。問い合わせは、同基金事務局03・3946・4121まで。【鈴木美穂】

人情の街サイゴン その9

脇平 裕美

ドンドン！ 誰かが部屋のドアをノックする音で目がさめる。まだ6時前ではないか。イヤな予感。ドアを開ける。や、やはり。昨日の夫婦が爽やかな笑顔で立っていた。

「まだ寝とったんか？ 今から朝ご飯食べに行くでっ。そこの麺がおいしいねんて。早く着替えなさい」

どこにいてもおばちゃんのパワーには勝てない。急いで着替えて出発。

「このあと、どうするんや？ 私らは山の上のお寺を見て、それから海に行くけど。一緒に行くか？」

噂どおり美味だったベトナム麺をすすりながら、おばちゃんは出会ってまだ半日しかたっていない私をふつうに誘ってくれた。せっかくの二人の旅行なのに、どうしてこんなにヒトがいいのか。不思議に思いながら、でもせっかくだし、とついて行った。

どこで見ても変わらない、早朝から騒がしい街の市場を散歩してから、私たちは自動三輪の乗り物に揺られて観光を開始した。道なき道を走り、山に登って、洞窟の中にあるお寺を見物し、天女が描かれているように見える洞窟の壁にお祈りし、山を下りる。そして海、待望の海である。

「なんやこれー。汚いなあー！」

これがおばちゃんの感想であった。確かに、目を輝かせて語ってくれた学生たちの期待に応えられるような感動はない。須磨の海よりはきれいかもしれない。しかしふつーの海である。おばちゃんの愚痴は続く。

「もおー。ハーティンの海はきれいやと聞いたからここまで来たのにー。汚いなあー」

そう。おばちゃんも“人のウワサ”を聞いて

てここまでやってきたのだった。うんうん私もだよ、と一緒にうなづく。ま、こんなモンか。しばらく水でばしゃばしゃ遊び、またがたがたと揺られ街まで戻る。

「帰る」

「へ？」

「ホーチミンに帰るわ」

道中、おばちゃんがあっさりと言った。そ、そんなに期待はずれだったのか。

「あんたはどうする？」

「え、え～、来たばかりやからもう少しおるわ」。ひとりで少し街をぶらぶらしてホテルへ戻り、二人の部屋をのぞくと、ホントに荷造りをしている。

「ホーチミン行きのバスは午後2時出発やって。あんたは帰らへんのんやな？」

到着してまだ半日ではないか。でもおばちゃんの決心は固かった。そしておじちゃんは3歩下がってついていだけ。それにしても本当に残念である。お世話になったから今日の晩ご飯は私がご馳走しようと思っていたのに。旅先での友は真の友にはなれない、と言うがあまりにもあつけない。しかしベトナムでは街の中然り、旅先然り、出会いはふいにやってくるが、「嗚呼、あの人情は“気まぐれ”だったのかあ～？」と思わせるほど別れも本当にあっさりやってくるのだ。

こうして新しい出会いと別れを体験し、私も新学期に向けて充電完了。また土ぼこりまみれになりながら8時間かけて我が家へと戻った。ホットシャワーと水洗トイレ、洗濯機のありがたみが倍増している。

(わきひら ひろみ・元駐ホーチミン市スタッフ)

●長らくご愛読いただいた「人情の街サイゴン」は、著者の都合により今号をもちまして連載を中断いたします。(編集部)

事務局より

2000年11月16日付号外で呼びかけ、ロンアン省トゥートゥア郡ロントゥアン村に建設中だった避難所兼学校が完成、9月5日に落成式が行なわれました。建設資金を主に支援した青葉奨学会沖縄委員会、北陸ベトナム友好協会、ベトナム子供基金を代表して青葉奨学会駐在の土肥明代さんが落成式に出席、「村の子ども全員が中学に進学できるようになることを願っています」と祝辞を述べました。

グエン・ドク・ホウエ代表は日本からの支援について、「ベトナムの教育に多くの関心をよせています。自分たちの経験を通じ、教育が発展の基礎であると理解しているのです」と語りました。「この学校は日本の友人たちからの贈り物であり、里親様たちは、学生たちが本当によく勉強できるようになり、いつかあなたたちの美しく豊かな故郷をより良くしてほしいという願いを込め、洪水の時期も勉強ができる場所をくださったのです」

ご支援くださったみなさま、ありがとうございました。

10月5日(土)、6日(日)に東京の日比谷公園で開かれる「国際協力フェスティバル2002」にベトナム子供基金も参加します。NGO、国際機関、政府機関等200団体が参加します。ぜひ遊びがてらお立ち寄りください。

ベトナムは9月から新学期です。新しい履歴票がホーチミン市の青葉奨学会より届き次第、日本語訳をつけてみなさまのお手元にお送りします。ただし、短大、大学への進学予定の里子については、入試の結果の確認がとれてから、引き続き同じ里子を支援するか、新しい里子を支援いただけるかの確認の連絡をいたします。なお、同じ里子をずっと支援したいとお気持ちはよくわかりますが、青葉奨学会も、われわれベトナム子供基金も多



避難所兼学校全景



教室ではすでに授業が行われていた

くの子どもに就学の機会を与えたいので、新しい里子の支援をお願いしたいと思います。

本年より、里子の審査をこれまで以上に厳しくすると、青葉奨学会からの連絡がきています。理由としては、奨学生の態度に問題がうかがえるようになったためとのことです。ですから、今年度からは履歴票と、本人の手紙(家族状況や、これまでの奨学金をどのように使っていたかなど)、推薦者の手紙(学校の先生でも、近所の間でも誰でもいいが、その学生をよく知っている人が書いたもの)を総合的に判断して、支援を継続するかどうか決めたいとのことです。どうぞみなさまにもご理解いただきたいと思います。